

これで良いのか林野庁、西表島の自然環境保全

リオモテヤマネコの保全を主目的に西表島の湿地で自然環境保全のモデル地区の設置を提案した。試験的な餌場造成と外来植物の駆除を活動内容としたが、環境省からの同意に対し、林野庁からは自然維持タイプ区域が含まれ、ここでの活動は不許可という回答を得た。提案地区の山隣接地のほとんどは民有地で放棄田と放牧地等がある。広大な自然維持タイプ区域は民有地の海側にあり、アメリカハマグルマ、ギンネム(緊急、重点対策外来種)が繁茂している。湿地を通る県道沿いでは乾燥化で希少植物のミミモチシダの生息が危惧されている。この様な状況での前記の回答には保全の姿勢が感じられない。そもそも外来植物繁茂の主責任は適切な対応を怠った林野庁にある。西表島の世界自然遺産登録が進められる中、多くの島民が種々の面で登録を懸念している。行政は、西表島の自然環境の重要性に見合う予算を重点的につけ、実効のある改善策を進めるべきである。